

経営に関する指標の用語の定義

$$\text{水洗化率(\%)} = \frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$$

現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水を処理している人口の割合である。
下水道事業は、一般に末端管渠が整備されてから水洗化されるまで相当程度の期間を要するものではあるが、経営上の問題はもとより、下水道施設の遊休化や公共用水域の水質への悪影響、接続済の者と未接続者との間の負担の公平など、多くの問題を生じることから、水洗化のより一層の向上に努めなければならない。

$$\text{有収率(\%)} = \frac{\text{年間有収水量}}{\text{年間汚水処理水量}} \times 100$$

処理した汚水のうち使用料徴収の対象となる有収水の割合である。有収率が高いほど使用料徴収の対象とすることができない不明水が少なく、効率的であるということである。
なお、著しく有収率の低い団体にとっては、多量不明水が発生している原因の究明とその削減に努める必要がある。

$$\text{使用料単価(円/m}^3\text{)} = \frac{\text{使用料収入}}{\text{年間有収水量}} \times 1,000$$

有収水量1m³あたりの使用料収入であり、使用料の水準を示す。
使用料の設定は、団体毎に、地域の実情に応じた体系を採用しているところであるが、ウに示す経費回収率が著しく低い団体にとっては、使用料設定上の問題点を究明する必要がある。

$$\text{汚水処理原価(円/m}^3\text{)} = \frac{\text{汚水処理費}}{\text{年間有収水量}} \times 1,000$$

$$\text{汚水処理原価(維持管理費)(円/m}^3\text{)} = \frac{\text{汚水処理費(維持管理費)}}{\text{年間有収水量}} \times 1,000$$

$$\text{汚水処理原価(資本費)(円/m}^3\text{)} = \frac{\text{汚水処理費(資本費)}}{\text{年間有収水量}} \times 1,000$$

有収水量1m³あたりの汚水処理費である。なお、汚水処理費は、維持管理費と資本費に分けられる。
特に、汚水処理原価(資本費)については、他の同程度の団体と比較して高ければ、処理場等の能力等が現時点では過大なものとなっている可能性が高い。このため、早期に計画上の処理量に達するよう末端管渠等の整備を促進する等の措置を講じる必要がある。
また、今後整備を進める団体については、計画の見直し等も含め、過大な建設を回避することにより、将来の建設費の削減を徹底する必要がある。

$$\text{経費回収率(\%)} = \frac{\text{使用料単価}}{\text{汚水処理原価}} \times 100$$

$$\text{経費回収率(維持管理費)(\%)} = \frac{\text{使用料単価}}{\text{汚水処理原価(維持管理費)}} \times 100$$

汚水処理に要した費用に対する、使用料による回収程度を示す指標である。
下水道経営は、経費の負担区分を踏まえて汚水処理全てを使用料によって賄うことが基本原則とされている。特に、経費回収率(維持管理費)が100%を下回っている団体については、下水道管理費のうち維持管理費も賄えていない状況にあることから、早急に経費の徹底的な抑制を図る一方、使用料の適正化を図ることにより、回収率の向上に取り組む必要がある。また、供用開始後間もない団体であっても、維持管理費を使用料により賄えるよう回収率の向上に努める必要がある。